

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (学術) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	廖 琳
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) 中国語を母語とする日本語学習者における「テ形」の誤用に関する研究 —動詞を中心に—			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)		教 授	佐藤 暢治
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		教 授	高永 茂
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		教 授	荒見 泰史
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		関西学院大学 大学院言語文化コミュニケーション研究科 教 授 于 康	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、『YUKタグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コーパス』Ver.10 (以下、『YUK作文コーパス』)を資料とし、校閲者が誤用と判断したすべての例を対象に、中国語を母語とする日本語学習者 (以下、学習者) が産出する動詞の「テ形」の誤用を論じたものである。本論文を通じて、動詞の「テ形」にどのような誤用パターンがあるのか、その誤用パターンにどのような傾向が認められるのか、そして誤用の発生要因が何であるのかを論じうえて、日本語母語話者とは異なる学習者独自の「テ」の捉え方とその理由を明らかにしている。</p> <p>本論文の構成は、次のとおりである。第一章は序論であり、本論文の目的、意義、資料、方法などを述べる。第二章は、先行研究を整理し、問題点を指摘したうえて、本研究の位置付けを述べる。第三章は、『YUK 作文コーパス』から抽出した動詞の「テ形」の誤用実態を整理し、考察対象を明確にする。第四章から第九章は誤用例の分析である。第四章では形式上の誤用である「活用の誤用」、第五章から第九章では統語上の誤用である「述語形成機能のテ形」と「接続機能のテ形」の誤用を分析し、誤用パターンとその傾向を明らかにする。</p> <p>第十章は結論であり、まず動詞の「テ形」に関わる学習者独自の捉え方を5点 (①動詞と動詞を繋げる際に「テ」を使用せず、複合動詞化を起こす。②節と節を繋げる際に「テ」を過剰に使用し、読点の「、」を多用する。③前後件が「契機的因果関係」で繋がれ、後件にモダリティあるいは意志動詞が現れる場合には「テ」を使用し、他方、前後件が「必然的因果関係」あるいは「時間的継起関係」で繋がれる場合には理由を表す接続助詞「ノデ」あるいは「カラ」を使用する。④「前置き」表現に関する知識が不足している場合には前後を「テ」で繋ぎ、他方、「前置き」の意識を持っている場合には話題導入部を「前置き」と見なし、逆接を表す接続助詞「ガ」を使用する。⑤前件に知覚動詞が現れ、後件に前件の人が知覚した結果、あるいは前件と異なる人が為した認識、存在など発見を表す状態性述語が来る場合には「テ」を使用し、他方、前件で自らが知覚した結果が後件で自らの心を表す感情の表出の理由となる場合には条件を表す接続助詞「ト」を使用する。) にまとめる。次に、学習者が「テ」を使用する理由として、「テ」は意味が多岐に渡っており、その分だけ学習者にとって使い勝手が良く、簡単な接続方法であること、さらに、学習者が「テ」の前後の事態を単に時間的な流れに沿って展開する別々の2場面と見る場合には「テ」</p>			

を用いるが、前後件の事態に関連性を感じ、前後を1場面の中で捉える場合には「テ」以外の接続助詞を使用することを論じる。そして、この場面性の違いは、学習者にとって「テ」は写真を1枚1枚順に眺めるように非連続なものを結ぶためのものであり、「テ」以外の接続助詞は映画を見るように連続的な繋がりを表すものとして捉えられるとする。

本論文は、次の3点で高く評価できる。第一は、本論文が動詞の「テ形」の誤用が抱える問題点の重要性を理解したうえで、関連する先行研究を精査し、言語学研究に不可欠な精密な分析方法を用い結論を導き出している点である。第二は、学習者独自の「テ」の捉え方を明らかにし、その理由を写真と映画という比喻を用い独創的な視点から論じている点である。第三は、本論文が今後の「テ形」の誤用に関する研究の先駆的な研究に位置づけられる点である。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和5年2月15日

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)